



CFI ニュースレター C2022-12 「クリスマスの奥義」



[今月の聖書]

「光は闇の中に輝いている。そして、闇はこれに勝たなかった。…

すべての人を照らすまことの光があって、世に来た」。 (ヨハネ 1: 5.9)

「ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間にマリヤは月が満ちて初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである」。 (ルカ 2: 6.7)

「暗闇の中に歩んでいた民は大なる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々のうえに光が照った」。 (イザヤ 9: 2)

「ひとりのみどりごが我々のために生まれた。ひとりの男の子が我々に与えられた。…万軍の主の熱心がこれをなされるのである」。 (イザヤ 9: 6.7)

「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた、また顔を覆って忌み嫌われるもののように、彼は侮られた。我々も彼を尊ばなかった。…彼は自ら懲らしめを受けて、我々に平安を与え、その打たれた傷によって、われわれは癒されたのだ。主は我々すべての物の不義を、彼の上に置かれた」。 (イザヤ 53: 3.5.6)

「御子は見えない神の形であってすべての造られたものに先立って生まれた方である。…神は御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、そしてその十字架の血によって平和を作り、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させてくださったのである。」 (コロサイ 1: 15. 19.20)

「神の奥義なるキリストを知るに至るためである。キリストのうちには、知恵と知識との宝が、一切隠されている。」

(コロサイ 2: 2.3)

クリスマスおめでとうございます。主にあって、大きな喜びが与えられますようにお祈りいたします。

今年は「クリスマスの奥義」と題してイエス・キリストの御降誕を祝い、その恵みを味わいたいと願っております。

聖パウロは「神の奥義なるキリストを知るに至るためである」(コロサイ 2: 2)と書きました。「奥義」とは、英語ではミステリーと言う言葉です。そこには二重の「不思議」があります。

①神が人類の救いを与える計画を不思議な方法で立てられたこと。ついにはベツレヘムの家畜小屋の中で生まれる男の子が救い主となるという計画。

②その救い主が、信仰によって私たちの心の中に生まれてくださり、私たちの存在をつくり変えてくださる事。

むさ苦しい家畜小屋の中の飼葉桶の中ではなく、汚れ果てた弱い私たちの心の中に神の御子がお住みになるということなのです。

旧約聖書はアダムとイブの罪以来始まった悲しい物語が、イスラエル民族の中から生まれる救い主によって輝かしい物語に変えられるという預言です。

新約聖書はそのお方が来られ、世界がどのように変わっていったかという記録です。神の愛の電流が天から降ってきて、私たちの信仰というアンテナに触れたときに火花を放つように、輝かしい光を放ったのがクリスマスです。

クリスマスには「待つ」と「来る」と言う2つの言葉が隠されていると思うのです。私たちはこの日を待ってきました。そして救い主は今来られたのです。それは素晴らしい出会いであり、素晴らしい歴史の始まりであります。今年がウクライナ問題が私たちの心を痛めています、この悲しい現実に対しても救い主は必ず解決を与えてくださるでしょう。それは素晴らしい日の到来です。

(お知らせ)

*ウクライナ支援募金にご協力くださり、ご支援下さいましたかことを心から感謝いたします。

11月26日ウクライナ支援「メサイア2022」における募金と合わせてウクライナに送金いたします。これまでの募金は約200万円となりました。

*紀尾井ホールにおけるメサイア2022の公演記録DVD(4000円)、CD(2500円)を近日中に出版予定です。ぜひお求め下さり、その恵みを味わっていただければ幸いです。

*2022年の交わりを心から感謝いたします。来たる2023年に、さらに深い恵みと祝福とが皆様の上に注がれますようにお祈りしております

「クリスマスに思うこと」

鈴木能子（大阪府）

私は長く音楽教師をしていました。またイエスキリストに導かれ、聖書の言葉に育まれて生きて参りました。ですから当然讃美歌を歌う事は大きな喜びであり、聖歌隊で合唱することも生活の一部でした。関西においていろいろな伝道集会でお会いした小田彰先生は、大変若くて賛美の力のある方だと思っていました。



ある日数人の友人達と小田先生のチャペルフェローシップインターナショナル（CFI）のビジョンを伺いました。カセットテープにメッセージを録音して、普段礼拝に行かれない方や遠くに転勤した方などにお送りしたらどうであろうかというお話でした。もちろん音楽と聖書のお話が織りなされて語られる小田先生流の表現には大きな期待をいたしました。そこで私も発起人の一人として参加しますと申し上げました。

この働きがなんと 31 年も続いてきたと言うのです。その間に一緒にイスラエルに行ったり、メサイアの合唱団に加わったり、関西の公会堂でコンサートを開いたり、さまざまな楽しい思い出を作っていました。また阪神淡路大震災の時は、息子さんがリュックを背負って一緒に神戸まで来て下さいました。瓦礫の山の道路を歩き、各地の教会を訪問したことも思い出します。現在 87 歳になりましたが、クリスチャンライフの半生は CFI と共に歩んだ楽しい時間でした。そしてこの交わりを通して親しくなった多くの兄弟姉妹に心から感謝し、神様の祝福をお祈りいたします。

最近心の中に去来した聖書の御言葉をご紹介します。

ハレルヤ。新しい歌を主に歌え。敬虔なものたちの集まりで主への賛美を。(詩篇 149: 1)

あなたのおきては、私の旅の家で私の歌となりました。(詩篇 119: 54)

花は枯れ、花はしぼむ、しかし我々の神の言葉は、とこしえに変わる事はない。(イザヤ 40: 8)

わたしのことばは露のように滴る。若草の上に降る小雨のように、青草の上に降り注ぐ夕立のように。

(申命記 32: 2)

夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある。(詩篇 30: 5)

その地は主が顧みられるところで、年の初めから終わりまで、あなたの神主の目が常にその上にある。

(申命記 11: 12)

平和の神がイエスキリストによって、御心にかなうことを私たちにしてくださり、あなた方が御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるように。(ヘブル 13: 20, 21)

◇投稿募集のご案内◇

皆様の原稿をお待ちしています。

毎月のCFIニュースレターの裏面に順次掲載させていただきたいと思います。

- ・すくい体験のあかし
- ・個人的願いや祈り
- ・信仰生活のあかし
- ・主にある交わりのレポート
- ・最近気づいたことや発見したみことば
- ・CFIメッセージの感想や教えられたこと

何でも結構です。800字程度で、手紙、ファックスかメールで送ってくだされば幸いです。